

## AED（自動体外式除細動器）は、どこ？

心肺停止を前に体が動かさず。深く反省。でも、いくじなしだから…

市大病院に入院するも意識戻らず。初動対応のまずさか…

輪番紹介さなかの出来事

6日（火曜日）朝、いつものように階段のまえで、夜間学校ニュースを配っていると、誰かが呼んでる気配。声のする方を見ると、トイレの前、柱の横で呼んでいる人が目に入りました。

そこへ行くと、「救急車を呼んでほしい」とのことでした、柱の根本に一人横たわっていて、足が2、3度、ピクピク痙攣しているところでした。テンカンにしてはおかしいかと思っていたら、「胸が痛いといつて、突然倒れた」という説明がありました。救急車の出動を要請、一人にセンターの外で待ってもらい、救急隊員の誘導をお願いしました。

私は、倒れた人の横で待っていたのですが、その時、頭の中によぎったのは、「センターにAEDは、あったつけ」。

駅などAEDが設置されている場所には、表示がだされています。西成労働福祉センターでその表示を見たことがないので、設置されて無いと判断しました。電話で確認したら、やはり、無いということでした。

た。やってきた救急隊員は、腕で脈を診、喉で脈を診た。あと、あわててタンカーに乗せて、救急車に運びました。推測ですが、その時すでに心臓は止まっていたのかもしれない。

救急車の中に運んだ後、しばらく車体がギシギシと揺れたので、心臓マッサージを試みていたのかもしれない。一人の隊員が出てきて、運転席に座り、救急車は出ていきましたが、その隊員は、なにやら恨めしそうな、あるいは非難するような目で私を見たような気がします。今思えば、あんな状態の人を目の前にして、脈も診ず、心臓マッサージも試みないとは、なんたる無能力。

市大病院に運ばれ、機械の力で生きているとしても、意識は戻っていないようです。それが初動の対応のまずさに原因があるとすれば（多分、そうなのですが）、私の無能力がせめられるべき…。

ですから、自分の健康は自分で守るべく、最大限の努力を！生活保護活用で、日常的に医者にかかるう！

# いち じ きゅうめい きゅうきゅうたいいん い し く しんぱい そ せいほう 一次救命（救急隊員・医師が来るまでの心肺蘇生法）

## えい ばんのう ◎AEDは万能ではない

AED（自動体外式除細動器）がその機能を発揮するのは心室細動を起こしている心臓に対してであり、正常な拍動をしている心臓・完全に停止している および 他の不整脈を起こしている心臓に対しては、AEDの診断機能が「除細動の必要なし」の診断を下し通電は行われぬ。その際は通常 心肺蘇生法等による救命処置を行う。

## ◎心肺蘇生法（しんぱいそせいほう）

呼吸が止まり、心臓も動いていないと見られる人の救命へのチャンスを維持するために行う呼吸及び循環の補助方法である。

脳への酸素供給維持である。脳自体に酸素を蓄える能力がなく、呼吸が止まってから4～6分で低酸素による不可逆的な状態に陥る。そのため一刻も早く脳に新鮮な酸素を送る必要がある。人間の脳は2分以内に心肺蘇生が開された場合の救命率は90%程度であるが、4分では50%、5分では25%程度となる

### 1. 意識の確認

意識の有無を確認する（肩を叩きながら相手の耳元で呼びかける。この際、体を揺さぶらない）

### 2. 応援を呼ぶ

周囲に人がいれば、119番による通報、自動体外式除細動器（AED）の手配をお願いする。いなければ自分で行う。

### 3. 気道確保

固い地面の上に仰向けに寝かせ、片方の手で額を押さえ、もう片方の人差し指と中指で顎を上を持ち上げる。このとき口の中に異物があるときは除去する。

### 4. 胸骨圧迫（心臓マッサージ）

乳頭と乳頭を結んだ線上で身体の真ん中に手の付け根を置き、4-5cm程度沈むように圧迫する。肘を真っ直ぐ伸ばし、約100回/分の速さで圧迫を繰り返す。一回ごとの圧迫の後しっかり戻す（リコイル）ことが大切。

### 5. AEDによる除細動

自動体外式除細動器（AED）が使用可能であれば、機械の説明を読みながら使用する。

## じんこう きゅうふ ようせつ 人工呼吸 不要説について

国際的に人工呼吸は必要なものとして認識されていたが、国立循環器病センターや駿河台日本大学病院などが、人工呼吸を行わなくても、蘇生率は同じか、むしろ高いという研究結果を報告している。人工呼吸を行わなくても脳に酸素が届く要因としては、

1. 血中酸素濃度が呼吸停止後十数分は変わらないこと
2. 胸骨圧迫により肺が動くことが挙げられている。

しゅつてん ひゃつ か じてん  
出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

\*西成労働福祉センター職員が、心肺蘇生法に熟達し、かつ、自動体外式除細動器（AED）が設置されることが望ましい。年に1～2回、公開の救命講習会がセンターで開催される必要も、あると思いました。